三浦香海

　私はモンゴルで、多くの事を学んできました。それは、今まで教科書などでしか知らなかった事について、直接モンゴルを訪問して現地の人達と交流する事で、初めて深く理解をして体験できた事です。

　特に心に残っているのが、「言葉や文化が違っても、心は通じあえる」という事です。

　これは、インターナショナルチルドレンセンターで、同年代の内モンゴル人達と一緒に活動したり、歴史館に行った事で強く感じました。

　そして、「折り紙」で鶴を折ったり、「竹とんぼ」を飛ばすなどで、交流を深めたときに気付いたのですが、彼らは日本語を話せませんし、私達もモンゴル語は少ししか話せなかったのに、お互いに理解しあい、数少ない話せる言葉で私達はちゃんとコミュニケーションをとる事ができていたという事です。

　さらに、ジェスチャーを交え「バイラルラ（モンゴル語でありがとう）」などが通じた時には、本当に心の底から達成感がわき上がり、とっても嬉しかった事を覚えています。

また、彼らに日本語や「折り紙」「竹とんぼ」などといった日本の文化や伝統を、伝える事ができたんだと思いました。

　そして同じように、彼らから私達もモンゴル文化について教わった事がたくさんあります。

　まず「モンゴル人の優しさ」についてです。私のモンゴル人へのイメージは、有名なチンギス・ハンのように「勇ましくて強い民族」というものでした。しかし、彼らと生活していくなかで、困っているとすぐに声をかけるなど、モンゴル人の優しさと心の豊かさに気付きました。

　私は、言葉や文化は違うけど「心が通じ合えば、信頼できる友達はできる」という、とても貴重な経験ができた事に、感謝をするとともに、中学生でも国際化がいろいろと進んでいる事について、もっと学ばなければいけないと思いました。

　また、モンゴルの自然環境や遊牧民から学んだ事もありました。

　モンゴルは、高緯度地域に属し、日本とは違い夜の九時になっても外は明るくて、少し違和感がありましたが、学校で習った高緯度の特徴を直接肌で感じる事ができました。

　また私達は、ゲルという昔からモンゴルの遊牧民が住んでいる建物でキャンプをするため、テレルジという場所に行きましたがテレルジでは、すぐ近くに放牧された牛や羊、山羊そして馬などが道やゲルの近くに放し飼いされていたのです。はじめは驚きましたが、だんだん慣れていき、実際に遊牧民と暮らす馬に乗せていただく機会がありました。

　馬たちは、しっかりと指示を聞いて、夜になれば、自分の家に帰っていき遊牧民と家畜の関係は本当の家族のようなものなんだと実感しました。

　私は、今回のモンゴル研修会に参加できた事に、大きな誇りと充実感を得ました。

　そして、私達がモンゴルで困らないように事前研修などで多くの事を教えてくださった方々、モンゴルでガイドを務めてくださった方々に感謝の気持ちで一杯です。

　そういった方々のおかげで、楽しく、安全で、素晴らしい環境の中、五泊六日を過ごす事ができました。

　私達は、まだ中学生ですが、モンゴルで学び体験してきた全てが、これからの私達にとって重要な事だと思っています。

　二〇二〇年の東京オリンピック・パラリンピックでは、モンゴルの柔道選手団の人達が伊豆の国市に事前合宿に来られると聞きました。

　その時には、私達が経験してきた、言葉や文化の違う人とのコミュニケーションの大切さをみんなに伝えたいと思います。

　そして、私はモンゴルの人々に、心の豊かさや素晴らしい文化を教えていただいたので、今度は、私達が日本の素晴らしい文化について、海外の人達にたくさん伝え、さらに伊豆の国市とモンゴルの友好関係が、もっと深まるように、精一杯協力していきたいと思います。